

# 声高に叫ばれ続けて消えてゆく復興/復興/絆の言葉

短歌集 「ふるさとは赤」より

来月で4年がたつ被災地の様子の報道がめっきり少なくなり、復興の全体像を知ることが難しくなっています。しかし、私たちは被災者のみなさんが一番恐れている「忘れられる」心配を決してさせないことを決意して実行委員会を立ち上げ、活動をしています。被災地への応援は、「ざさやかでいい」「無理をしなくていい」ただ、忘れていない証を心を込めて、被災地に伝え続ける事だと思えます。

## 後輩たちよ！つないで下さい！ 被災地との絆を！

第4代目 東日本大震災被災地応援実行委員長 清家 未来

委員長という立場に立ち、実行委員になってみて、自分の中で震災という出来事がとても身近に感じるようになりました。人の心を動かすことの難しさや、自分たちの思いをしっかりと伝えることの大切さなど、多くの学びを得ることができました。たくさんの新しいことにチャレンジでき、全ての協力して頂いた人達に感謝したいです。

これからも、多くの人たちが、応援活動に協力することの素晴らしさに気づき、多くの被災地の方々が、よりたくさんの笑顔が生まれ、温かな気持ちで日々が送れるようになって欲しいと願っています。  
最後にありがとうございました。

### 実行委員会から のお願いと お知らせ

「11円募金」  
ご協力有り難うございました。来月は丸4年です。  
多くの方の募金協力をお願い致します。

3年生が卒業します。実行委員になってくれる人を募集しています。

2月8日、気仙沼の鹿折中学校仮設住宅の代表者からお手紙を頂きました。一節を紹介致します。  
贈って頂いた「祈りの向日葵の種」ですが、今は鹿折地区内が復興のための土盛り中で、公園や住宅地が使用できない状況になっておりますので、使用できるようになり次第、地区内まちづくり協議会とも相談して植え付けをしたいと考えています。  
陸に打ち上げられた共徳丸の横で咲いていた向日葵の種が、平安女学院の校庭で咲き、その種が再びふるさと鹿折地区で咲く日が待ち遠しいです。

### 向日葵咲かせます！

# リレートーク

実行委員会担当教員 渡邊聡子

高校3年生のみなさん、いよいよ卒業式まで残り数える日数となりました。「轍」を毎月手にとって読んでくれてありがとう。「轍」は平安女学院のホームページに載せてありますので、卒業してからもぜひ読んでみて下さいね。

さて、私は高校生の総合学習（Agコースはソーシャル、立命館コースはリベラルアーツ）を担当してきました。コースの特徴から、それぞれ授業の内容は分かれますが、共通して大事にしてきたことがあります。それは、①弱者への視点を持つこと、②感受性を豊かにすること。そして、③高校生の間に培ったことを将来の糧にしてほしい、という願いを持って授業をしてきました。授業の中でも、被災地のくらしや震災・原発事故について取り上げる機会がありましたが、私は実行委員会の活動こそ、上の3つのことを凝縮しているものだと思っています。

今回は、私の目から見た実行委員会の活動の意義について書きたいと思います。

実行委員会では、被災地のことを思い、考えながら活動しています。京都にいる私たちは被災地まで物理的に遠い場所にいますが、被災地にいる人たちの心に寄り添うことをいつも意識しています。新聞やニュース番組、天気予報の情報を頼りに、「この冬は何を必要としているのかな」、「何を送ると喜ぶかな」、「今年の冬はどれくらい寒いだろう、雪はどれくらい積もっているのだろう」と考えたり、震災から4年が経つ現在、人々や町の様子はどうなっているのだろうと想像したり……そして、もう一つ実行委員会の特徴としては、募金を集める時や支援物資を買いに行く時、活動を紹介するイベントに行く時など、すぐに誰かが手を上げて動いています。その実行力にはいつも見ていて驚かされます。

ただ、実行委員会ではまだ行っていない大事なことがあります。それは、被災地に行くことです。「被災地を実際に見て、被災地にいる人から話を聞いて、被災地の様子を感じ取ってくること」これが実行委員会の最大の目標です。私は2011年の4月（震災1ヵ月後）に気仙沼を訪ねました。その時のあらゆる衝撃が今でも忘れられません。だからこそ、生徒の皆さんにも現地でしか分からないことを学んでほしいと思います。今年こそ私たちも行かなくては！と思っています。

最後に、卒業する3年生へメッセージを送ります。実行委員として活動に参加した人も、募金などの形で協力してくれた人も、平安女学院を卒業する皆さんには、これからも想像力を豊かに、そして自分の信念を持って行動できる人になってほしいと願っています。